

医療業界の今後と課題 ～鬼ごっこ活用の可能性～

(鬼ごっこ総合研究所 研究員) 松尾 泰範

Future task of medical industry: possibility of onigokko

(Onigokko research institute researcher) Yasunori, matsuo

キーワード：医療業界、2025 年問題、在宅医療、鬼ごっこ

■ 研究背景

2025 年の日本は、団塊の世代が 75 歳を超えて後期高齢者となり、国民の 3 人に 1 人が 65 歳以上、5 人に 1 人が 75 歳以上という、「超高齢社会」を迎える。医師や看護師、介護従事者は年々増加傾向にあるが、需要に対する供給は全く追いついておらず、特に介護従事者は 2025 年には、約 38 万人不足するという試算も出ている。また 2018 年の医療・介護の同時診療報酬改定を受け、病院で受け入れることの出来ない高齢者を地域で看る、在宅医療が注目されている。この診療報酬改定は、病気と共存しながら QOL を維持向上させるために、医療を病院完結型から地域完結型に改める必要があるという認識に基づいており、国策として病院の機能分化、急性期医療のスリム化と人的・物的資源を集中投入することによる在宅復帰の促進、入院期間の短縮、病院外での看取りの促進が進められる。今後、住み慣れた地域や家で医療行為を受ける高齢者が増加する中、健康の維持や地域コミュニティとの関わり方を考える必要がある。

■ 考察

医療改革が進む中、高齢者の「健康維持」と「地域との関わり」は今後、より重要となる。しかしながら、現状では受け入れる側の地域住民の理解や認識は極めて低い。その溝を埋める手段として、日本人の誰もが認知し、運動強度のバリエーション、コミュニケーションツールとしても優秀な鬼ごっこは有用ではないかと考える。

■ 引用・参考文献

- 【1】 池上 直己 (2014) : 特集 検証 平成 26 年度診療報酬改定 2025 年モデルを反映しているのか 2025 年を視野に入れた医療提供体制のあり方, 病院 73 巻 12 号
- 【2】 厚生労働省 (2015) : 社会保障制度改革国民会議 報告書
- 【3】 厚生労働省第 (2017) 第 7 次医療計画 医療計画について